

井筒屋だより

第四十号
令和六年
二月号

井筒屋で春を感じよう

桃宴開催中、新商品も販売

春が待ち遠しい季節、恒例の「笠間のひなまつり 桃宴」が始まりました。市内の各所で笠間の作家さんによる陶雛を展示、販売するこのイベントも、今年で24回目。笠間に春の訪れをいち早く知らせる催しとして定着しています。

井筒屋では、陶雛のほか、ちりめんのつるし雛などを展示中。春のあたたかさを感じられる装いとなっていますので、ぜひお出かけください。3月3日まで開催。



陶雛を展示しています

作家物を販売

井筒屋1階の物販コーナーでは、1月から、一部の商品を取り揃えています。青木涼歩さん、折居怪雨さん、刺し子の櫛さん、の3名の作家さんの作品を取り揃えています。



刺し子のポーチとがま口

刺繍ストラップ

えましました。刺繍ストラップや巾着、磁器のピアス・イヤリング、刺し子のポーチ・和布のブローチなど、どれもこれからの季節にぴったりの作品。ぜひ、手に取ってみてください。販売期間は3月末までです。

2~3月のイベント

バイオリンとピアノのコンサート ~ミュージックアルプスin笠間~

日 時：2月23日(金・祝) 午後2時 (開場1時30分)
出 演：小池 彩夏(ヴァイオリン)
物井 彩(ピアノ)

音符のような笠間の山々をイメージしながら、クラシックの名曲を演奏します。



入場料：2500円(予約) 3000円(当日)

桃宴コラボ 山山井筒屋ボサノバライブ

日 時：2月25日(日) 午後2時 (開場1時30分)
出 演：山口 由美(ボーカル)
山口 コージ(ピアノ)

笠間の陶雛まつり「桃宴」コラボライブ。癒しのボサノバ・ジャズテイストの歌謡曲などお楽しみください。



入場料：2000円(1ドリンク付)

アルゼンチン報告会 at 井筒屋

日 時：3月10日(日) 午後5時 (開場4時30分)
出 演：小林 萌里(ピアノ)

ピアノ演奏とスライド上映会。コスミンフェスティバルとアルゼンチン滞在の様子をお伝えします。



入場料：2000円(マテ茶とお菓子付き)

井筒屋歴史講座 笠間時朝 その信仰と造仏及び和歌

日 時：3月12日(火) 午前10時 (受付9時30分)
講 師：南秀利(笠間市文化財保護審議会会長)

笠間時朝の信仰造仏及び和歌を詳しく解説します。



料 金：300円
定 員：36名(先着順)

申し込み：2月1日(木)より電話にて予約を開始

かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時~午後9時 月曜日休館(月曜日が祝日のときは火曜日が休館となります)

~このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています~



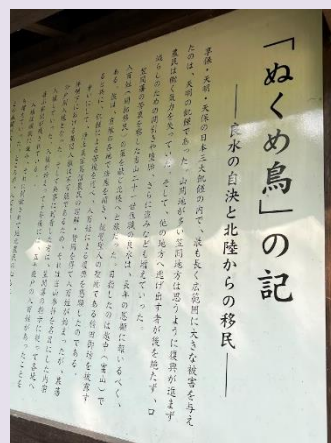
歴史こらむ 西念寺の「ぬくめ鳥」の記

2月の和名「如月」は、「衣更着(きさらぎ)」が転じたという由来があり、厳しい寒さに備え重ね着をする季節だ。

ぬくめ鳥とは、冬の寒いときに鷹などの猛禽類が小鳥を捕まえて、足を温め、役目が終わった後にはその小鳥を食べるこ

となく離すという。冬の季節語でもある。

笠間市稲田の浄土真宗別格本山の西念寺は、親鸞が約20年住んだところで、その境内に「ぬくめ鳥」の記が建てられている。



めの調査が加賀藩で始まり、牧野藩主に迷惑がからぬように、入百姓の責任はすべて良水個人にあることを伝え、心配なく開拓に励むよう説得して動揺を静め、入植に関する書類を焼却した上で自決した。といったことが記されている。記の最後に、牧野貞喜の句「風牙ゆる 夜はまた春の ぬくめ鳥」が添えられている。

さて、このエピソードがなぜ「ぬくめ鳥」なのかは、様々な解釈がある。皆様はどう感じるか、如月に西念寺を訪ねてはいかがでしょうか。(尚)

中世の城の魅力堪能

2月10日に
城郭サミット

茨城県内の中世の城跡についての発掘。研究成果を発表する「茨城県郭サミット」県央・県西



編一」が2月10日、12時30分より、笠間公民館で開かれます。

県内には、中世の城館跡が1135カ所あることが明らかとなっていますが、笠間城を始め、県央から県西の城館跡についての調査報告が行われます。記念公演として「戦国城館のやきもの」も開催。中世の城の魅力が堪能できます。入場無料。問い合わせは、笠間市教育委員会(0296-77-1101 内線381)。

【井筒屋ニュース】



コロナ明けのお正月 門前通りに賑わい! 猿回しも盛況

コロナの自粛が無くなって初めてのお正月、笠間稲荷は大勢の人でにぎわいました。恒例の猿回しも大盛況でした。

【後記】

新年早々、大変な出来事が起きています。被害にあわれた方に、心よりお見舞い申し上げます。

今回被災した能登町に、江戸時代に活躍した力士で、6代目横綱の阿武松緑之助(おうのまつみどりのすけ)の顕彰碑があります。高さ4.5メートル、幅2.4メートルの巨大な石碑ですが、地震の被害を受けずに、しっかりと無傷で立っています。さすが横綱、あの地震で、びくともしなかった。私たちも負けずに踏ん張りたい」と地元の人が話していました。

昔の人の石碑が、今の人に力を与えることもあるものだなと感じます。私たちも、何かできることを探していきたい」と強く思いました。

(雄)